

目標9 2050年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現

子どもの好奇心・個性を守り、躍動的な社会を実現する

Project manager

(2021 年度採択)

菊知 充

金沢大学 医薬保健研究域医学系
教授



代表機関

金沢大学

研究開発機関

大阪大学
金沢大学
京都大学
東京大学
東京藝術大学

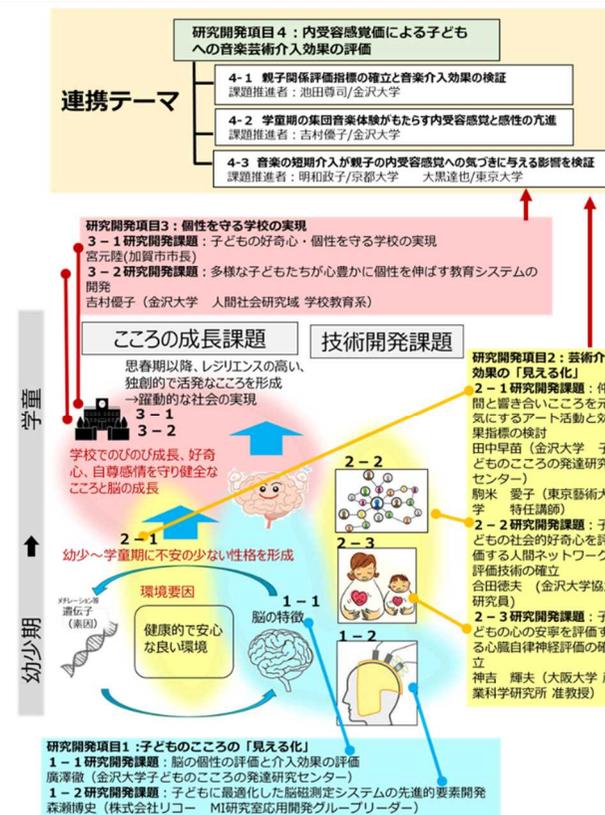
プロジェクト概要

幼少期に自尊感情が著しく傷つけられるとレジリエンスが生涯にわたり低下します。これを防ぐことで、だれもが安心できる環境で、生来の好奇心を発揮しながら成長できる環境を実現します。それにより能動的意欲と独創性に満ちた社会を実現します。具体的には、個性の脳画像技術により子どもの脳の個性を客観化し、最適化された芸術活動による介入の効果を「見える化」し、自治体の「子どもの好奇心・個性を守る学校構想」と連携しながら社会実装していきます。

終了時(2025)年までのマイルストーン

- ASD の多様性を客観的に評価するシステムを開発する。これにより、人口の2%にも及ぶ ASD 児童と家族を守り、個性を伸ばす創造的環境につなぎ、精神的に豊かで躍動的な社会を実現するための要素を確立する
- 幼児用脳磁図システムをより安価で実用的なものにするために、未来型脳磁図センサーの幼児への応用可能性を検証する
- 「好奇心」と「こころの安寧」を生み出す芸術活動介入を個性に合わせて提案する
- こころの安寧と活力増大を実現する学校教育モデルを提案する
- こころの安寧を心臓自律神経系で捉える実用的なシステムを開発する
- 社会的好奇心を対人ネットワークの定量分析で捉えるシステムを開発する

研究開発体制(2024 年 4 月時点)



本研究開発は大きく分けて四つのテーマで構成されています。図の下から、第一に就学前の子どもの個性の客観化、第二にアート介入の効果検証、第三に個性を守る学校です。第四に音楽や芸術活動の効果検証です。四つのテーマは、それぞれつながっています。大学、企業、自治体と連携しながら推進していきます。